

藤子作品オススメの1話

下津 聖平

私がオススメする藤子作品オススメの1話は、ドラえもんの『天の川鉄道の夜』です。そして、私がオススメしたいのはこの話の水田わさびドラえもんで放送された版です(原作のやつは申し訳ないですが含みません)。放送された日が、2009年3月6日・2011年12月30日・2022年12月31日と3度に至ります。原作にある話がアニメで放送される場合に内容が大きく違ったり、要素が追加されることがあります。この話もこれに該当して要素が追加されている話であり、そのシーンに魅力を感じて今回紹介したいというわけです。

まずこの話について説明します。原作でもアニメでも、スネ夫の自慢話を聞かされて羨ましがったのび太は、「天の川鉄道乗車券」をドラえもんからこっそり奪って宇宙を走るSLに乗りに行くという流れです(スネ夫、ジャイアン、しずかちゃんもついてきましたね)。原作だと、終点についたのび太たちは列車がもう走らないということを知り泣いていたところに、ドラえもんが「どこでもドア」で迎えに来たという感じでしたね。

アニメ版だと、終点につくまでに色々あります、ここの色々なシーンに魅力を感じます。まず、スネ夫とジャイアンが客車を切り離して、豪華列車と衝突する危機に遭遇します。そこで、ドラえもんが「どこでもドア」を開けて登場。「かるがるつりざお」を使い客車を持ち上げて危機を回避します。ドラえもんも加わり終点に向けて出発することになります。しかし、不運なことにさっきすれ違った豪華列車が、隕石にぶつかり脱線しそうな状況になっていました。そこで、のび太たちが乗っているSLが豪華列車の乗客を助けに行きました。その後、SLに衝突しそうな大きな隕石をのび太が破壊してSLは無事に終点に着きました。というのがアニメ版の流れです。

本題に入ります。まず、隕石が降ってきて自分たちでさえ無事に帰れるか分からない状況で、のび太たちは豪華列車のところに行こうと決心したシーンですね。しずかちゃん「あの列車ちっちゃな子も乗っていた」、ジャイアン「ここで逃げたら男じゃない」と発言をして、のび太「行こう助けて」と決断の言葉をかけます。つまり、自分たちも困っている状況なのに、他に困っている人たちがいるから助けに行くって勇気ある行動で魅力的だと思いますし、こういうことって簡単にはできないことなんじゃないかなと思います。ジャイアンに至っては、あの時列車が衝突していたら何人もの乗客の命が失われたかもしれないという自分の身勝手な行動を反省したのかは定かではありませんが、身勝手な行動から人を救おうという考えに大きく転換できたのが凄いと思います。このシーンから、人は変わろうと思えばいつどんな時でも大きく変わるっていう教訓が学べるんじゃないかなと思うんですよ。ドラえもんのひみつ道具の力も借りて、無事に乗客を全員豪華列車からSLの方に移すシーンにも魅力があります。スネ夫が豪華列車に取り残された乗客がいないか最終確認をしていた時に隕石の衝撃で吹き飛ばされました。その瞬間、SLの後ろに乗っていたジャイアンに腕を掴んでもらったスネ夫。2人の熱い友情のような物を感じました。

そして、のび太が隕石を破壊するシーンですね。このシーン、ありとあらゆるドラえもんの話や映画を見てきましたが、一番大好きでオススメです。先ほども書いたとおり、SLに衝突しそうな隕石を破壊しなければならない状況になります。SLの車掌「隕石の中心を正確に撃たなければならない」と発言しました。ドラえもん「正確って、うん」。と言ってのび太の方を向いて相槌を打ちました。のび太「無理だってば無理無理」、ドラえもん「数少ない取り柄の1つだろ男を見せろ他に誰がやるんだのび太君にしかできないんだぞ」という会話をしました。ご存知のとおり、のび太は射的(射撃)が大得意です。『宇宙ガンファイターのび太前編・後編』(2008年2月8・15日放送)によれば、彼は射撃が宇宙で一番上手だそうです。そんな彼が大勢の命を守るという大きな仕事を任されることになりました。ドラえもんの指示の元隕石を撃ち落とすタイミングを見計らいます。ドラえもん「今だ!」、見事中心に命中!のび太「やったー!」。このシーンから、人が生きる意味って自分にしかできないことが必ずあるからそれを探すことなんじゃないかと思うんですよ。あと、その規模が小さなことか大きなことか、得意なことか不得意なことかはもちろん分かるはずはないですがとにかくやってみようという気持ちが大事なんじゃないかと思うんですよ。